

技術研修会が開催されました

1月28日に開催された「法面技術研修会」の様子が新聞に掲載されました。

施工管理や安全管理についての講演のほか、工事現場体験発表、安全パトロールの結果報告と、とても充実した研修会となりました。

弊社の社員も多く参加し、工事現場体験の発表や労働災害防止標語で表彰を受けました。

100人超熱心に聴講

特定法面保護協会群馬県支部会

技術研修会を28日開催

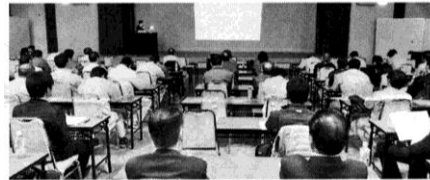


設楽幹事長

全国特定法面保護協会
群馬県支部会
会館で法面工事技術研修会を開催した。

会（設楽雅之幹事長）は28日、前橋市内の群馬建設会館で法面工事技術研修会を開催した。当日は100人を超

や安全管理を学んだほか、会員企業による現場体験発表などに耳を傾けた。全国特定法面保護協会は、特定法面保護工に関する調査や研究・開発、技術者の養成などを行っている。県支部の事務局は渋川市の高特内に設置されている。同部会の本多竹三郎技術委員長の開会に続き、登壇した設楽幹事長は「インターネットに慣れている方は、検索エンジンへキーワードを3つ入力すると聞く。3つの単語を入力することで、探したい店や商品を容易に特定できるという。それを逆の立場で考えると、検索されたい側は3つのキーワードによって、自分の商品などが検索画面の上位に出るよう工夫を凝らしており、自分の売りを3つのキーワードで表現しているこ



100人が熱心に聴講した

うことである。このように、自身を表現するキーワードを常々考えるということが大切であり、それは工事現場にとっても同じことが言える」との見解を示し、続けて「本日は第一部で県の検査員による講演、第二部では現場体験発表が実施されるが、さまざまなかごを学べる良い機会であり、課題と改善、良き工夫を吸収してほしい



長谷川支部長

来賓には、同協会関東地方支部の長谷川東支部長が駆けつけ「この数年、自然災害が頻発している。われわれは国民の生命・財産を守っており、それが会員の使命である。きょうの技術研修会を契機に、知識の習得と技術の向上に努めていただき、今後の業務に役立ててほしい。ますますの活躍を祈念する」と祝辞を寄せた。

その後、第一部の講演へと移行。県契約検査課の鈴木利光主任工事専門検査員が「法面工事の施工管理」をテーマに、続けて、同課の辰野和義補佐が「工事現場の安全管理」を演題にそれぞれ講義を展開した。鈴木検査員は冒頭、施工計画書について「現場に沿って作成することが大事で、検査員は施工計画書の中身を注視している。施工計画書は現場における主」と述べ、その重要性を強調した。また、施工時における命綱の2点掛けや既設構造物の保護の徹底を促したほか、標示板類の適正な掲示例、クラック処理といった具体的な事例をパワーポイントで紹介した。他方、辰野補佐は、昨年度と本年度に県内で発生した工事事故の状況を説明。事故を未然に防ぐための工夫、積極的な取り組みを強く求めた。

休憩を挟み、第二部では会員各社から募った労働災害防止標語の入賞者表彰式のほか、会員企業による法面工事現場体験発表、さらには昨年の12月16日に県内4カ所の工事現場で実施した年末安



標語入賞者表彰の様子

全六パトロールの結果報告も行われた。



1月30日の群馬建設新聞に掲載されました。

全六パトロールの結果報告も行われた。

「広報しぶかわ」で会長が紹介されました

人 渋川ほっと 作品を通じて 多くの人と共感していきたい

平成25年に行われた春陽会第91回展の版画部門で最高賞である岡鹿之助賞を受賞した高橋房雄さん。小さい時から美術が大好きだった高橋さんが、版画家の道を目指したのは中学3年生の時。当時の美術部顧問の松岡先生に勧められ、美術部に入部。たくさんさんの美術作品に触れ、中でもパウルクレーや岡鹿之助さんの作品に感銘を受けたことがきっかけでした。

高校を卒業してすぐ東京で就職し、仕事の傍ら制作活動を続けていた高橋さんですが、上京して9年が過ぎた頃、実家の家業を継ぐために帰郷。群馬に帰ってからは、仕事を覚えるのに必死で、やむなく制作活動は中断していました。



高橋房雄さん
(八木原・78歳)

高橋さんの木版画作品展「かるてつとぶるう」が2月6日(金)まで東京の「啓祐堂+ギャラリーオキュルス」で開催されています。

制作活動を再開したのは、帰郷して10年ほど経過し、仕事落ち着いた頃。お子さんにお父さんかっこいい！すこい！と思ってもらえるような作品を作りたいと考え、決心されたそうです。それから毎年欠かさずご自身が現在も所属されている、春陽会展に作品を出品し、昨年ついに岡鹿之助賞を受賞。受賞の感想を伺うと、「美術に携わるきっかけをくれた画家の一人である岡鹿之助さんの賞をもらうことができ、何よりも嬉しい」とにこやかに話してくれました。

最後に今後の目標を伺うと、「制作活動を続けられる間は必ず作品を作り続け、作品を通じて多くの人と共感していきたい」と話してくれました。